

令和5年12月9日

12月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では各森林組合・林業事業体の新材生産が本格化したことにより原木生産量は増加している。各地区の共販所ともスギ、ヒノキの入荷は順調だが、間伐材、小径木の入荷は少な目である。製材工場の材の引き取りも順調。スギ、ヒノキとも強保合で推移していたが、高値推移の疲れから応札価格は徐々に値下がり傾向にある。ヒノキ4m土台・中目材も徐々に値下がり始めている。

群馬県では原木入荷はスギ、ヒノキとも少なく、製材工場では原木集荷が急務になっている。首都圏の製品市場からの受注は低調。仕事は出始めているが例年の7割程度。製品在庫は依然として多い。貫、胴縁の在庫は減少傾向だが、破風板、垂木、根太の荷動きが悪い。製品価格、売れ行きとも厳しい状況は変わらず。

2. 米材

米国内の製材品価格は新型コロナ前の水準に戻ったところで推移している。冬場の鉄道貨車不足等の物流の混乱がない限り市況が大きく改善する兆しはない。米国の港頭在庫は日本大手米マツ製材の取引量の減少もあり潤沢。一方、カナダでは夏場の山火事警戒で伐採量が減少し、港頭在庫が払底したが、現在は伐採順調で在庫を積み上げ中である。米マツIS級並の12月積み対日輸出価格は未確認ながら前月比横ばいの\$940/千SCRで決着した模様。10月の米国新設住宅着工数は前月比1.0%増の年率換算137.2万戸となった。産地価格はほぼ横ばい推移。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(12/5)は\$379/M、11月頭に比べ3.3%の上昇。

10月原木入荷は102千 m^3 と今年最低となった。鹿島への入荷がゼロになったこと、カナダからの入荷が1万 m^3 を割ったことが要因。1~10月累計では1,495千 m^3 、前年同期比は22.4%減。年内は10月程度の入荷で推移する見込み。出荷は134千 m^3 と低調、1~10月累計は1,502千 m^3 で前年同期比22.0%減。在庫は前月より減少し164千 m^3 、在庫率は1.10ヵ月。東京木材埠頭の11月製品入荷は14千 m^3 (前月比13.5%減)、出荷は13千 m^3 (同13.6%減)、在庫は34千 m^3 (同4.9%増)。中国木材の生産減少により他の国内製材工場への発注が増加し、米マツ製品市況は底打ち反転したが、住宅需要が弱く力強さは

ない。中国木材の受注制限は解除された模様。

3. 南洋材

サラワク州では雨期に向かって降雨は確実に増えており、伐採に影響を受けているキャンプが多くなっている。雨期は旧正月明けまで続き、伐採は急減し原木価格の上昇が予想される。PNG では降雨の影響や最大輸出国である中国の需要減少もあり伐採量は減少。サバ州ではサラワクに比べ降雨は少なく、伐採への影響も比較的軽微である。12 月予想の原木入荷 0 千 m^3 、出荷 1 千 m^3 、在庫 6 千 m^3 。製材品入荷は 23 千 m^3 。

4. 北洋材

シベリア産地では 11 月に入り伐採道路も凍結し、本格的な冬山伐採時期に移行したが、製材工場の丸太在庫は極めて低水準である。中国市場は依然として低迷。日本市場は若干上向いてきたが、鉄道貨車の不足が深刻で出荷できない状況が続いている。日本向け産地価格は底打ちしたが、現地サプライヤーの望む水準には遠い。アカマツ原板の交渉がそろそろ始まるが、値上げは間違いないだろう。輸入商社では足元の採算が非常に悪く、アカマツ野縁製品の値上げには抵抗しているが、値上げは避けられない状況にある。国内北洋材製材工場の荷動きは回復しているが、採算は非常に厳しく各社とも生産調整で対応している。

10 月の製品入荷(東京+川崎)は 11.5 千 m^3 と先月の反動で減少。11 月入荷はさらに減少する見込み。出荷は 16.4 千 m^3 と秋需もあり回復。在庫は 37.8 千 m^3 で入荷減と出荷増により大きく減少した。

5. 合板

合板メーカーは約 1 年にわたる生産調整により原木の受入制限を続けており、原木仕入価格は横ばいを維持している。米マツ丸太は米国内の原木価格の値下がりに伴い小幅安となっている。

10 月の国内合板生産量は 23.1 万 m^3 、うち針葉樹合板は 22.7 万 m^3 、出荷量は 22.9 万 m^3 で在庫量は 16.3 万 m^3 となり、うち構造用合板の在庫は 13.1 万 m^3 と前年に比べ高水準な状態が続いている。針葉樹合板は秋になり、合板メーカーや商社等で出荷が月を追うごとに増加しているものの、構造用を中心に弱気配が続いている。秋前には実需が停滞し、一部の合板メーカーが出し値を下げたため、価格を維持する姿勢だった他のメーカーも追随する形になった。今後も値下がりを警戒し仕入に当たり様子見の動きもある。輸入合板は当用買い中心ではあるが、直近の輸入減少、円安によるコスト増には一定の

認知が進んでいる。円安による買付数量が減少しているため、年度末にかけて品薄感が再度出る可能性がある。10月の合板輸入量は前月比1.2万m³減の17.4万m³、インドネシアとマレーシアは減少、その他は増加。産地では原木価格は下がらず、副資材等のコストも上がり、オファー価格はこれ以上下げることができず、横ばいを維持。新規交渉が11月末から本格的に始まるが、各シッパーからの発注依頼も特に無く、様子見の状況。各シッパーの製品在庫はほぼ無くなっており、原木が不足すれば、新規発注分の船積みには時間がかかる恐れがある。

6. 構造用集成材

第3・四半期契約分のラミナ入荷量は順調である。欧州の休暇の影響によるオファー減少のため、今後も入荷は減少する見込みである。第3・四半期契約価格は€280/m³前後。為替は円安傾向で輸入コストは上昇している。11月時点のラミナ入港価格は47,000円/m³程度。フィンランドでは減産を見据えているため、今後価格は上昇すると予想される。プレカット工場では輸入集成材や米マツ製品から国内集成材への切り替えが増えており、集成材メーカーの受注、販売ともに増加している。

7. 木材チップ(東海)

原木は製紙・バイオマス発電用とも小径材の引合は強い。全体では入荷低調で慢性的な原木不足感が強い。燃料材は解体物件の減少、作業員不足等により入荷量は減少。処分費値下げによる集荷増の動きも見られる。燃料用の消費は製紙。バイオマスともに堅調。冬場は消費量も増えるため、年末年始の集荷が厳しい地区も多い。原料用の在庫は横ばいだが、燃料用の在庫は減少傾向にある。

8. 市売問屋

輸入材製品の値戻しにつられて、国産材製品も少し強気になって来たが、いつまで続くのかと言った感じである。材木店は輸入材のバンドル買いが出来ないため、国産材で必要な物だけ購入している。地方では米マツ製品の代わりにヒノキKD材の9.0cm角、10.5cm角が動いていると聞くと、都内ではまとまっては出ない。

9. 小売

首都圏の木材、建材の荷動きは前月並み。プレカット会社は好不調のまだら模様で全体的には11月から失速している。新築木造住宅物件の不振が続いており、昨年末に比べ一段と活気がない。ヒノキ柱、土台が強含み。米マツ製品の代替需要でプレカット工場から土台の引き合いが強く、値上げに転じそう。輸入材製品は長らく続いた過剰在庫から脱して安値物も払底した。

RW 集成柱は米マツ製品の代替需要で引き合いが増えて値上がりの見通し。造作材は米ツガ材が高止まりしており、スギ、ヒノキへの代替需要が出ている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和5年12月9日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	↗	↗	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	↘	→	↘
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

注) 北洋製材品は東京・川崎

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↗	↘	↘	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↘
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↘
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→			
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級 アカマツ (KD) 16×40上級	↗
		アカマツ (KD) 16×40上級	↗	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
		ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
		スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗	
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↘